

一歩先を行く0歳児から中学校卒業までの 英語教育の実現

～県内トップクラスの教育環境整備と地域社会・国際社会で活躍できる人材の育成～

はじめに

グローバル化の進展をはじめとする社会情勢の変化を背景に、世界共通語の一つとしての英語の需要が高まっている。それに伴い、就学前教育、学校教育において、早期からの一貫した英語教育の推進が喫緊の課題となっている。

そこで、美馬市では『一歩先を行く0歳児から中学校卒業までの英語教育の実現～県内トップクラスの教育環境整備と地域社会・国際社会で活躍できる人材の育成～』を基本方針とし、その達成に向けた取組を推進するために、「美馬市英語教育推進計画」を2018年に策定した。

この計画は、最上位計画である「美馬市第2次総合計画」、上位計画である「第2次美馬市教育振興計画」（教育大綱）との整合性を図りながら、本市の英語教育の充実を目的とした、英語教育における具体的な施策や事業を示したものである。

- ・計画期間は、2018年度から2022年度までの5年間とする。ただし、この期間中、文部科学省や徳島県の方針や施策の展開を踏まえ、必要に応じて見直しを行うとともに、具体的な計画を作成し、事業を実施することとする。
- ・基本目標は次の3点である。

- (1) 地域社会・国際社会で活躍できる人材の育成。
- (2) 積極的に人と交流できるコミュニケーション能力の育成。
- (3) 自分の言葉で伝えられる発信力の育成。

以下、本推進計画の具体的な施策・事業について説明させていただきます。

1. 組織的な英語教育推進体制の確立

各学校等の実態を踏まえて実現可能な施策を展開するため、市及び教育委員会、各学校等が協働して、英語教

育推進に向けた中心的組織を構築して取り組んでいる。

- (1) 2017年10月に、0歳児から中学校卒業までの一貫した英語教育を推進するための組織「美馬市英語教育推進委員会」を設置し、具体的な施策について、随時協議・検討を行っている。委員は、教育委員会、保険福祉部、小学校長会、中学校長会、幼稚園長会、認定こども園長会の代表者ならびに専門部長、事務局員となっている。
- (2) 外国語教育指導監が全小・中学校を巡回し、新学習指導要領の目標に基づき、授業改善のための指導・助言を行う。特に、小学校外国語の教科化に伴い、ALT等との効果的な協働授業（TT）のあり方や教員の英語力向上に係る支援を行う。毎年、各小学校の低学年は2～3回、中学年は3～4回、高学年は4～5回の割合で参観し、授業の後に改善のポイントを助言している。
- (3) 教育委員会ではALT（6名）の生活全般にわたる支援を行う他、外国語活動支援講師（ネイティブスピーカー：2名）と合同で月1回程度の割合で市教委主催の研修を開催し、サービスの確認をはじめ指導方法から日常生活に至る情報交換を行っている。

2. 小・中学校英語担当教員等の指導力向上

新たな指導法に対応するための研修を実施するとともに、市内で統一したCAN-DOリストを作成するなどして、授業を担当する者の指導力の向上を図っている。

- (1) すべての小学校教員及び中学校の英語科教員が研修を受講できるよう、夏季休業日等を利用し、指導力向上に係る研修を実施し、授業の質の向上を目指している。
- (2) 美馬地区中学校教育研究会英語部会と連携して、中学校の英語科担当教員やALTの授業研究や実践交流を推進している。

- (3) 鳴門教育大学小学校英語教育センターと連携して、優れた実践を行っている講師等を招き、講演・ワークショップなどを開催し、英語教育の研修機会の拡充を図っている。2020年度は、小学校の外国語科の評価方法に関する研修を行った。学校現場にとって、行動観察やパフォーマンステストの導入など多様な評価方法を学ぶ有意義で貴重な機会となった。
- (4) デジタル教材・教科書やICT機器を活用した効果的な授業、スピーチ・プレゼンテーション等を取り入れた授業を推進している。本市はこれまで他の市町村に先がけて、電子教科書や電子黒板等を市内小中学校に積極的に導入してきた。特に小学校の外国語の指導においては、子どもたちの興味関心を喚起し、理解を助けるという点で、デジタル教科書やICT機器を活用した視聴覚教材は大変効果的である。
- (5) 中学校教員による校区内小学校の授業参観を実施している。小学校でどのようなことを学び、経験し、どんな知識を持っているかについて情報共有することで、中学校でフォローすべきポイントが見えてくるとともに、無駄を省いた効率的な授業づくりが可能となる。また、ALTが小・中学校で教えていることも同様にメリットがある。



3. ALT等を活用した英語の授業の推進

小・中学校における英語教育の授業においては、国際交流を含めたコミュニケーション活動の中心にALTを据えた取組を行い、子どもたちが英語に触れる機会を増やしている。

- (1) 現在、市内7中学校のうち、小規模校1校を除く6校にALTを常駐配置しており、定期的に校区内の小学校へも派遣している。外国語活動等における指導はもとより、児童生徒と学校行事や学級活動等に積極的に参加することなどにより、英語力のみならず異文化理解の向上につながっている。
 - (2) 市内小学校5・6年生を対象に、夏休みに「イングリッシュデイ」を開催し、児童が学習した英語を使う機会となるよう工夫している。(過去2年間は、新型コロナウイルス感染症の予防のために中止。)
 - (3) 小学校各学年にALT及び外国語活動支援講師を定期的に派遣し、学級担任が主体となった協働授業(TT)体制を築いている。TTの時間数については、小学校1・2年生は年間10時間、3・4年生は18時間、5・6年生は35時間をめどに、計画的に実施している。
- また、低学年、中学年に対しては市教委で日本語版と英語版(ALT用)の指導案を作成して、学校現場の負担を軽減するとともに、市として統一した指導に取り組んでいる。

4. 英検受験に関する公費負担

国の第2期教育振興基本計画「生徒の英語力向上プラン」で掲げる指標をもとに、英語検定を市内中学校3年生が公費で受験できる機会を設定している。

- (1) 中学校3年生の英検(3級以上)の受験費用1回分を公費で負担している。
- (2) 中学校3年卒業時に、英検3級以上の合格者を50%以上にすることを目指している。

2021年度において、本市中学校3年生全体の英検受験率は58%で、3級以上の合格率は40%であった。

5. 0歳児から中学校卒業までの段階的な英語教育

本市における0歳児から中学校卒業までの英語教育については、年間指導計画に基づき実施している。各学校等の児童生徒等の実態に即した指導を行い、スムーズな接続を効果的・効率的な英語教育の取組へとつなげている。

- (1) 保育所・認定こども園・幼稚園では、英語に慣れ親し

むことを目標とし、月2回程度の「英語あそび」の活動を通して、聞くこと・話すことを体験できる環境づくりに取り組んでいる。

また、小規模保育所「ワールドキッズ mima」では、民間事業者による英語保育を実施している。

- (2) 小学校1・2年生では、聞くこと、話すことの言語活動を通し、英語に慣れ親しむことのできる授業づくりに努めている。幼稚園等で学んだ挨拶や単語を活用しながら、英語の絵本等を使うなどして、担任とALTとの協働授業（TT）を実施している。



- (3) 小学校3・4年生では、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の3領域の言語活動を通し、コミュニケーションを図る素地を育成する授業づくりに努めている。

- (4) 小学校5・6年生では、3領域に加え、読むこと、書くことの言語活動も含めた5領域の言語活動を通し、コミュニケーションを図る基礎となる能力を育成する授業づくりに取り組んでいる。



- (5) 中学校では、ALTの増員により、TTによる指導時間

を増やすとともに、ICT機器を積極的に利用するなどして、より効果的な指導を目指している。

6. 学校環境等の英語化

学校環境等の英語化には、教室等の英語名併記などのハード面と自然に児童生徒が英語を話すことができるといったソフト面での環境づくりが重要である。ハード面での整備がソフト面での充実につながることを踏まえ、ALT等との連携を重視しながら、施設・設備の一層の充実に努めている。

- (1) 施設掲示版や各教室等における英語名の併記、英語コーナーの設置、階段を利用した英語の掲示等、各学校等において英語に親しむ環境づくりに努めている。また、イングリッシュルームを設置している学校も複数校あり、掲示物を工夫するとともに、毎年使う教材を分類して蓄積するなどして、教員の負担軽減につなげている。
- (2) 保育所・認定こども園・幼稚園で、ALT等のネイティブスピーカーとの触れ合いを通して、英語に親しめる環境づくりに努めている。

7. 英語による学習成果の発表の機会

ALT等との連携を重視しながら、子どもたちが学習成果を披露できる場を作っている。

- (1) 学校行事の際に、英語劇や英語によるスピーチなどを実施し、子どもたちが日頃の学習の成果を発表できる機会を設定している。

毎年開催される美馬地区中学校英語スピーチコンテストでは、鳴門教育大学の教授2名と共に外国語教育指導監が審査員として参加している。

- (2) 英語教育、外国語活動における各学校の取組を保護者等にHP等で積極的に発信している。

8. アンケート(教職員・児童対象)の実施

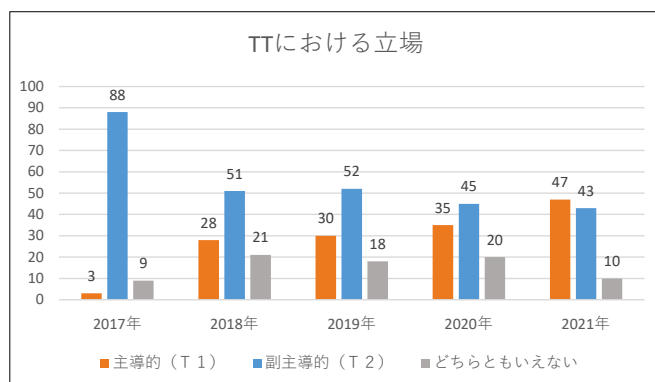
推進計画に基づき、目標を設定し、年間指導計画の実

施に積極的に取り組んでいるが、達成状況を把握するための一環として、小学校の外国語活動・外国語教育を担当している教員及び3年生から6年生までの全児童を対象に、毎年アンケートを実施している。

〔2021年度の結果から〕

○教職員（63名）

- ・担任とALTとのTT授業において「担任が主導的な立場（T1）で行う」との回答が、推進計画実施前年の2017年から毎年増えており、2021年はT1の立場がT2を逆転した。



- ・2020年度と比較し、外国語の授業への負担については、「大いに感じる」との回答が20%から10%へと半減し、「あまり感じない」との回答が27%から38%へと大きく増加している。
- ・95%の担任が「児童が積極的に取り組んでいる」と回答している。

○児童（3・4年生 389名、5・6年生 393名）

- ・毎年、約8割の児童が「外国語活動、外国語の授業が好き」と回答している。
- ・多くの児童が自由記述で、「英語を話せるようになりたい。」「英語を書ける・読めるようになりたい。」と回答している。
- ・8割以上の児童が、「英語の勉強は大切だ」と思っており、その理由として多くの児童が「高校などの受験に必要」、「外国人とのコミュニケーションがとれる」、「将来仕事に必要」、「海外旅行に行きたい」と回答している。

おわりに

〔成果〕

保育所・認定こども園、幼稚園において、歌や遊びを楽しみながら英語に触れ親しむという体験が、小学校からの外国語活動、外国語教育へのスムーズな移行につながっている。また、ネイティブスピーカーの指導により、正確な発音やイントネーションを身につけることができている。さらに、市内の全小学校が同一歩調で外国語活動や外国語教育に取り組むことができおり、担任の先生方もALTとの協働授業（TT）において自信をもち、積極的にT1としての役割を果たすことができるようになってきていることがあげられる。これらの結果として、子どもたちも外国語や異文化に興味関心を持ち、意欲的に自信をもって学習に取り組むことができている。

〔課題〕

就学前、小学校、中学校のそれぞれの発達段階を考慮した上で、時代の変化に対応しながらより効果的な英語教育への取組を目指す必要がある。さらに、それぞれの教育の場における成果をいかにスムーズに接続していくかという点も重要である。例えば、小学校ではペア・グループ活動、発表活動などのように経験や知識を生かす授業づくりに取り組んでいるが、中学校に入ると大量の文字や文法学習が始まり、子どもたちが英語嫌いになる可能性がある。

本年2月に第3次美馬市教育振興計画が策定され、それをもとに現在第二期（2023年～2027年）の「美馬市英語教育推進計画」を策定中である。グローバルな社会で活躍できる人材の育成を目指して、小・中学校でのALTや外国語活動支援講師を活用した授業を一層推進し、英語教育をさらに充実させるとともに、児童生徒の外国語活動への意欲を高めていく。また、国際交流員等との交流の機会を増やし、教科横断的な視点からも国際理解教育を一層推進していく。

0歳児から中学校卒業までの一貫した先進的な英語教育を実現することにより、将来、美馬市の子どもたちが、積極的に人と交流できるコミュニケーション能力を身に付け、地域社会のみならず国際社会で活躍できる人材となるよう願っている。